

新型コロナウイルスに関する対応や今後について のアンケート集計結果より

～看護師編～



EST訪問看護ステーション
辻森 祐里

1.業務への影響

○人手不足、収益減少

- 感染予防対策の為、利用者の人数を定員の半分に減らした為、収益減少。
- 感染防止の為の消毒等、業務量は増えた。
- 新規利用者を受けられない(訪問)
- 利用者数の減少。
- スタッフの体調不良時はいつもより多めに休ませるための人手不足。

1.業務への影響

○感染拡大への不安・ストレス

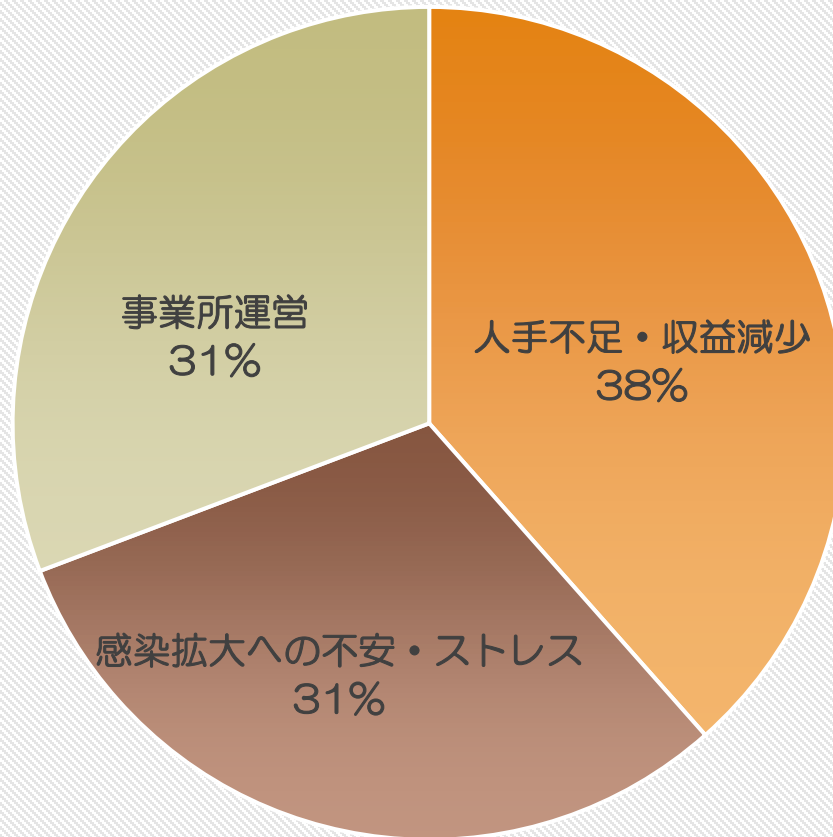
- 自分かもしウイルスの媒体になったらと思うと日々怖い。
- 精神的負担(クラスターの心配・発熱したらという不安)が大きい。
- 職員は自分が感染しないようにプライベートの行動にも注意し大変なストレスだった。
- 今までの生活そのものを変える必要があり、今まで普通に出来ていたことが出来なくなった。

1.業務への影響

○事業所の運営に関すること

- (訪問に)来ないで欲しいの要望。入院すると面会できないので在宅したいの希望。
- 看取り期も家族との面会に制限あり、スタッフ・家族共にジレンマを抱える。
- これまで以上に消毒・清掃をし、時間のやりくりをしなくはいけなかった(施設)
- 特に「外から持ち込まない。」ために外部との接触を断たなければならないことは大きな事であった(施設)

1.業務への影響



- 人手不足・収益減少
- 感染拡大への不安・ストレス
- 事業所運営

2. 苦慮・大変なこと

○感染者への対応

・入浴介助の患者さんがコロナウイルス陽性が発覚。介助のNsに感染した。発覚が3日後だったため、Nsが他患者に訪問し、他患者も濃厚接触者となった。幸いにも他Nsと患者は陰性だった。

○感染予防対策

- ・品薄で消耗品を揃わない。現在ではコストの高騰で苦慮している。
- ・構造・環境は急には変えられず、入所者様の長い生活歴もあり生活習慣も変えることも出来ず、外から持ち込まないように努めるしかない状況
- ・熱発者、訪問の際の防護方法

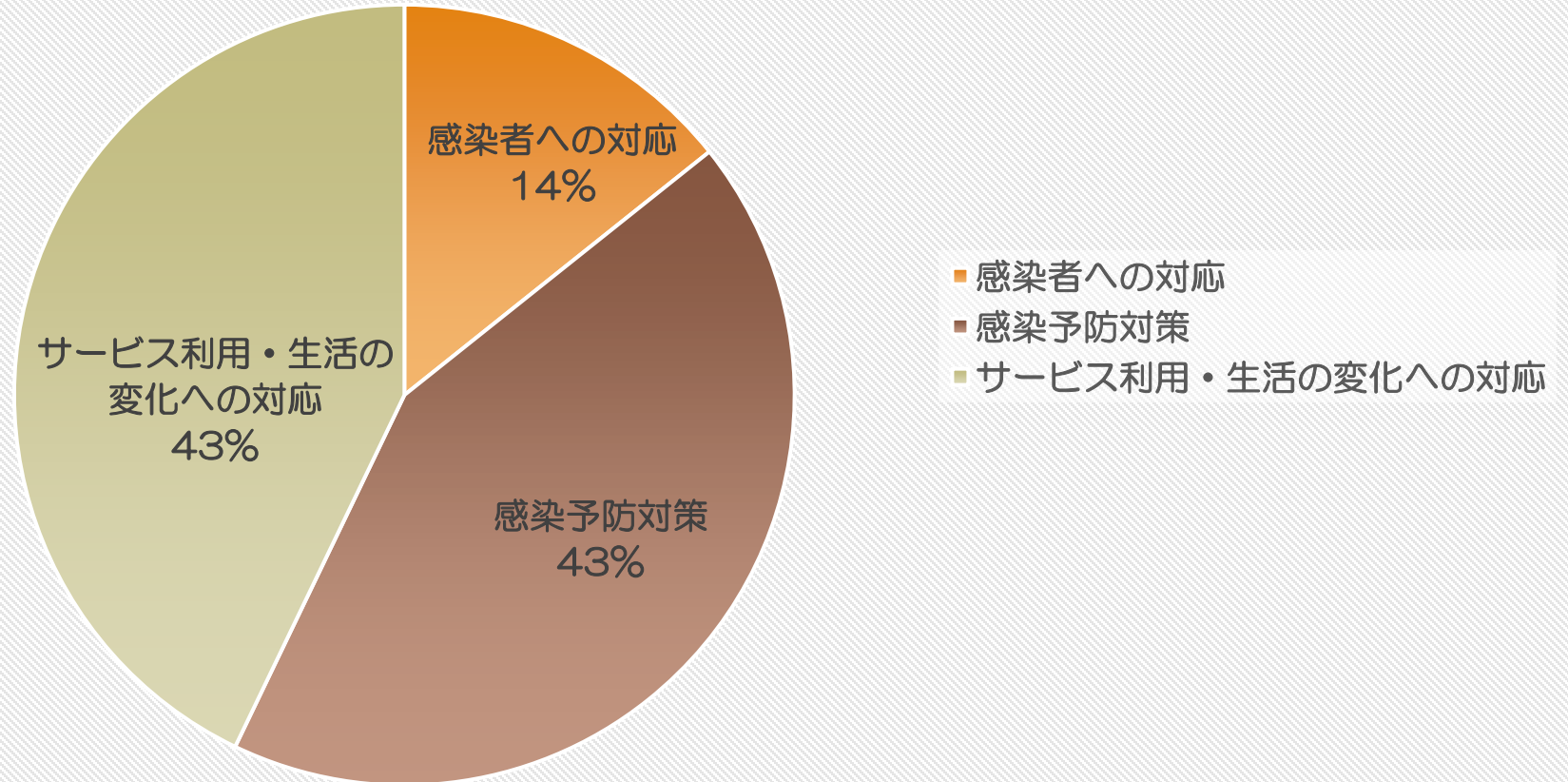
○サービス利用の変化への対応

家族さんからの面会要望

(利用者の視点) リハビリ室が使えず、狭い空間でのリハビリを行っている。

(支援者側の視点) レクや体操等、以前の様な集団で行えず個別では限界がある。

2. 苦慮・大変なこと



3.工夫したこと

○情報収集・周知

- ・レクリエーションの工夫について、パワーポイントを使ってクイズや早口言葉等を大型TVで視聴している。
- ・石川県感染対策事業を受けたことは大変よかったと思っています。今までしていたことに間違いが無かったことを確認できたこと、不十分な点を明確に出来たことは、はっきり分からないことからくる不安の軽減に繋がりました。

○感染予防行動

- ・ケア毎に感染予防対策(PPE)を再考。すべての患者にマスク・フェイスシールド着用。入浴時にもガウンなど、とても手間がかかる。
- ・3月にリーフレット配布したが12月末にもう一度わかりやすいリーフレット使用し再指導した。PCRを受けた時点ですぐ連絡をしてほしい。
- ・オンライン面会の導入

4.仕事への思い

- 在宅を支える上で通所リハビリは必要なサービスだと思うが、収益面と感染リスクが心配。
- Nsは介護職や利用者に感染対策を指導する役割がある。
- 疲れました
- 新型コロナウイルスの存在がとても近くに感じて、いつ何が起きても不思議じゃない状況に不安は感じますが、今自分たちができる事をするしかないと思っています。実際、施設で感染が発生したら分かりませんが。
- 感染症の流行は受け入れている。流行は関係なく、仕事なので続ける。続けていく上で感染対策はしっかり行うということ。

5.まとめ

- 業務への影響

今まで以上に必要とされる感染予防行動、陽性者及び疑い患者への対応、職員で体調不良者発生時の業務調整など業務量の増加・人手不足を感じる場面が多くあった。また、医療者としてプライベートも行動制限を余儀なくされており、個々の予防策・意識をもちながら生活することでストレスを感じていた。事業所としても、利用者の受け入れ制限や訪問回数を減らしてほしいなどの要望が増えたりと収益の減少につながることも多くみられた。

- サービス利用

施設や病院では面会制限があり、利用者だけではなく家族も我慢を強いられる状況にスタッフも心苦しさを感じることもあった。一方で、在宅では面会制限を回避するために、在宅に戻る選択肢をとる利用者も増えた傾向にある。

レクリエーションや運動も、集団で行うことができない。個別の指導には限界もある。使用できる部屋も限定的なため、今までと同じようなケアができない。

- 感染予防対策

県や看護協会などから情報収集をし、常に知識のアップデートを行っている。看護師など医療者側の感染予防策はもちろん必要だが、非医療者にも必要性を理解してもらうことが大事。自分たちの関わる患者・利用者に対してもわかりやすい説明文書を用いて必要な感染予防策・対策について説明をすることも役割のひとつと捉えている。自分たちにできることをやるという意識で臨んでいる。